

文化施設のあり方検討委員会会議録

日 時	場 所	出 席	<input type="checkbox"/> 委員(山口夕妃子氏、本田恵介氏、黒澤伸氏、吉原新司氏、鐘ヶ江直雅氏、望月美都輔氏、坂口勉氏、井上祐次氏(山下氏代理)、井手静雄氏、深町恵介氏、松尾寛氏) <input type="checkbox"/> 小松市長(あいさつのみ)、松尾教育長 <input type="checkbox"/> 事務局 こども教育部 文化課
令和8年3月19日(木) 13:30 ~15:15	武雄市役所 4階会議室	出席	
1. 協議件名		第1回 武雄市文化施設のあり方検討委員会	

議事録

1. 開会

2. 市長あいさつ

- ・人口減少社会における公共施設の最適化と持続可能な財政運営及び文化の火を消さないための文化振興の2つのパッケージの両立を目指したい。
- ・すべての人に正解はなくても、文化関係、文化団体等関係者の方々の納得解を作っていくということが大事だと感じる。
- ・今回大ホールだけではなく、将来を見据えた市全体の文化施設のあり方というところについて、ぜひご検討いただきたい。
- ・ハードとソフト両方あつての文化振興。ソフトの部分である、これからいかに文化の担い手をこれまで以上に増やし、文化に関わる人が、さらに自主的な参画、盛り上がりをどうつくっていくかも大事だと思っているので、それらも含めご検討いただきたい。

3. 委嘱状交付

4. 松尾教育長あいさつ

- ・昨年、大ホールの廃止・解体方針案に対し、パブリックコメントや文化団体との意見交換会を行ったところ、多岐にわたるご意見をいただき、最終的な判断には慎重な検討が必要であると判断し、本委員会を設置した。
- ・大ホールの整備方針のみならず、将来を見据えた市全体の文化振興のあり方について、専門的・客観的な立場から忌憚のないご意見をいただきたい。

5. 委員自己紹介及び役職選任

委員長:山口 夕妃子 氏 副委員長:望月 美都輔 氏 顧問:黒澤 伸 氏 を選出

6. 議事

(1) 武雄市文化施設のあり方検討委員会の目的と進め方

- *別紙資料を基に、検討委員会設置に至った経緯や、その目的、今後のスケジュールなどについて説明を行った。

○意見・質疑

(委員A)

・見直しに至ったのが去年の1月。それから1年以上市からのお話を聞き、市も団体からの意見を聞いていただいて、1年以上ずっと意見を述べているが、それに関してどのようなことを検討されているか教えていただきたい。

(委員長)

・1年間の対応については、それを踏まえて今の委員会があると思っている。
・全4回の中で一定の方向性を整理していく必要があるため、これまでの経緯も含めて、今後の座談会等で意見を出してもらおう場を設けることが重要であると考えている。

(委員A)

・委員の皆さんにこれまでの経過を十分ご理解いただいているのかが心配点。

(委員長)

・これまでの経過について様々なご意見があることは承知しているが、個別の経過については多岐にわたるため、本委員会では主な論点を整理しながら議論を進めていきたいと考えている。

(委員A)

・今までのことはなんだったのかというような思いがある。また、この前の議会でも、議員がまた1年間検討するのかというご意見も出ていた。
・また同じことの繰り返しになるのではという心配があったので、これまで意見が出された中で、市としてどのような対応をされたのかを聞いておきたかった。

(事務局)

・文化団体へ説明を行い、方針案を出したがパブコメ等、様々なご意見を受け、昨年10月から11月にかけて、ご意見をお聞きした。皆さんそれぞれ思いがあるところで、1つの結論を出すのはなかなか難しいという状況だった。
・意見交換の中でも、もう少し時間をかけてほしいというご意見や、委員会を設けてほしい等のご意見もあったため、やはりもう一度時間をかけて改めて考えるべきではないかということで、今回の委員会を設置した。

(委員長)

・これまでの経緯や個別の意見の取扱いについて課題があることは認識しており、プロセスの明確化も含めて、本委員会で整理していく必要があると考えている。
・報告書に今までの1年間の経緯をすべて載せることは難しいと思うが、主要な論点をどのように整理し報告書に反映し記載していくかが本委員会の役割であると考えている。
・パブリックコメントも、計142件の意見が提出され、それらをどのように報告書に盛り込んで、我々の意見をまとめて出していくのかも必要。
・また、結論の示し方についても、一つの方向性に整理するのか、あるいは複数の案として提示するのかについて、本委員会で検討していく必要がある。それが一択になるのか、多様な意見ということでいくつかのまとまりのある案を出して、委員会の方向性にするのかも議論の1つだろうと思う。結論をどう出していくか、そのためにどんな意見を

この報告書の中に盛り込んでいかななくてはいけないのか、市民の声一人一人の声を反映していくために、どのような整理をしたらうまく理解してもらえるのかということが、この委員会に課せられた大きな役割と責任ではないかと思う。

- ・分厚くなりすぎても読んでもらえない、薄くなりすぎると反映されていないのではという問題もあるため、そういった点も考えながら、委員会を進めていければと思う。
- ・4回の中でまとめるには回数がかなり少なくタイトであり、しかも多様な意見をまとめることは難しいと思うが、意見をたくさん言っていた方が、方向性が見えてくると思う。本委員会としては、特定の結論を前提とするのではなく、多様な意見を整理し、方向性を示していくことが役割であると考えている。
- ・限られた回数の中での検討となるが、まずは本日、方向性と進め方の確認を行い、具体的な内容については次回以降、議論を深めていきたい。

(委員A)

- ・じっくり時間をかけてほしいという意見があったと再三言われているが、施設のことについてじっくり時間をかけてという意見だったのかなというのは少し疑問。意見交換会に出席し、ソフト面のあり方も含めて議論をしていこうというような意見であったと思うが。

(委員長)

- ・施設の廃止方針が示されたことを契機に、市民の方々から意見が寄せられたことを踏まえ、時間をかけて廃止ありきの結論ではなくて、改めて検討する必要性が生じたものと理解している。
- ・一方で意見が多様であることから、どちらかの意見に集約するのは容易ではないと考えられる。
- ・また本件は単に大ホールの存廃にとどまるものではなく、人口減少や財政状況を踏まえた施設のあり方や、その活用方法など、複合的な課題を含んでいる。大ホールの存廃だけをこの中で議論していくわけではなく、今後の武雄の文化振興のあり方を広く考える中での、大ホールの位置付けを考えていこうということが求められていると認識している。
- ・今後の進め方に関しても、現時点で固定するものではなく、議論の過程で生じる新たな視点や意見を柔軟に取り入れていく必要があり、その点は事務局にもお願いをしたい。

(2)文化のまちづくり構想と新文化交流施設エリア整備

*別紙資料を基に、令和3年度に策定した文化のまちづくり構想や今回のエリア整備の概要について説明を行った。

○意見・質疑

(B 委員)

- ・現在、文化協会の幹事として年間の企画をたてたり、開催場所などの検討を行っている。運営側でもあり、プレーヤーとしての経験のある者の意見として申し上げる。市内の様々なところで文化活動を見たり、させていただくような企画を主にしているが、これは文化ホールとは切り離れた考え方として、これがあるから文化ホールがなくていいということ

ではなく、様々な市や県の施設があるが、いろんなところで足りない設備を足さないといけないということが議題にあがる。音響や空調設備が必要である等様々な問題を検討しながら進めているものなので、これとは別にホール事業のことは考えていただきたい。

- ・多目的ホールは、観客に見られずに登場してパフォーマンスができるのか。パースを見るとステージに20～30人が並んでいるが、ステージに並べたとしても、その人たちが待機する場所があるのか、動線がどうなっているのか伺いたい。

(事務局)

- ・ステージ両脇の壁がでてくることで舞台裏を作ることができる設え。控室は会議室を兼ねた楽屋やスタジオなどが考えられる。

(B 委員)

- ・観客に見られずにホールに入ることはできるか。

(事務局)

- ・裏の動線を一部通行止めにするなど関係者しか通れないよう工夫することで解決できる。

(C 委員)

- ・この多目的ホールはあくまでも大ホールがあることを前提に、それを補完する形の多目的ホールということで設計され、大ホールが劇場機能を持ったホールということになるかと思う。
- ・舞台上には機材等を吊るすバトンが必要になるし、今はどちらかということ、音楽系のお話をされているが、例えばバレエや日本舞踊等にも使いたいということになれば、多目的ホールでは難しいと感じる。
- ・ただ一方で、まず大きな前提として、持続可能な財政状況や今後の市の人口等を踏まえた上での行政を進めていくということ、地域の文化の火を消さないという2本をパッケージにしたものが大前提としてあるということになれば、大ホールをなくしてしまうということになると、多目的ホールだけで補完できるかと言われたら現実的に難しいと感じる。
- ・ステージの高さはどれぐらいあるのか。

(事務局)

- ・3段階で調整でき、最大80センチの高さになるものを検討している。

(C 委員)

- ・80センチあれば、ある程度見やすくなると思うが、客席は完全にフラットなところにイスを並べるので、後ろの方は少し見づらいかもしれない。
- ・毎回スタッキングチェアを並べ、現状に戻すという作業があることも、検討の1つと考える。ただ、多目的ホールは既に工事が始まっており、これを急に変えることは現実的ではない。この多目的ホールがある中で、大ホールをどうするかという議論に持って行かざるを得ないかと思う。

(D委員)

- ・既に工事をしている箇所に関しては、大きな変更はできないし、エリア整備をしている
この場所は、当初大ホールが残る前提で設計されたと思う。限りなく建物を大きくしていくのは難しいので、大ホールを補完するという意味では、このような形で様々な使い方、できるだけいろいろな部屋を兼用しながら利用できるように設計されたと思う。
- ・これは進めていただくとして、個人的には説明の中で記載されている文化の役割①から⑤まで、ものすごく大事な言葉が書いてあると感じている。常に立ち返るべきは、この①から⑤が人間が人間らしく生きるために極めて重要だという宣言をしているところ。これを見ると、武雄というまちがものすごく文化を大事にしようとしているのが明確。
- ・そのため、そこはもう完全に文化関係者の方の間でも、コンセンサスが取れている内容が多いと感じる。きちんと書かれているので、そのベースの上で大ホールをどうしていくかというところが、議論の中心になると思う。

(3)武雄市文化会館大ホールの現状

*別紙資料を基に、これまで文化会館が果たしてきた役割や、大ホールの現状として、改修に係る概算工事費、老朽化の現状、利用状況について説明を行った。

○意見・質疑

(A委員)

- ・大ホールは使えない状況であるという説明をこれまで聞いてきたが、それまで改修をして使うというのは、もともと強行したように思えた。それをなぜ見直されなかったのかと思う。当初から新施設の中にホールの機能があれば、解決できたのでは。
- ・改修に対してもともと予算があったのであれば、ぜひ基金のようにして、今後もホールの整備に使っていただけないか。また、利用率について、1つは、そのコロナの影響や鹿島市にも、新しいホールができ、様々なイベントをされている。武雄の合唱団や吹奏楽団もそこで演奏会を行ったり、高校の文化祭も行っており、流出が進んでいる。
- ・近隣施設でも、頑張っているところは稼働率が上がっているの、あまりにも落ちていることを現状ととらえずに、もう少し明るい目で見れるよう、今後そのような検討ができればいいなと思う。

(B委員)

- ・ホールの稼働率と利用者数について、文化協会で大ホール事業を今までずっと行ってきた。現在の文化協会は、文化課の職員2名が事務局で、他は市民の幹事で話し合いを行っているが、大ホールが開館した当初から、文化を育てるために、専門職員が1名いた。専門職員が様々なホール事業に取り組み、助成金の獲得や外部の団体を呼び込んで興行を打って頑張っていたということを伺った。
- ・その職員が、平成の終わり頃に退職をされていると思うが、その専門職員枠が、引き継がれていない状況。事務局の文化課職員には異動があるので、時には2名とも、前年度の事業経験がない職員が来ることもあり、引き継いでいくのが非常に難しい状態。資料を見ると、

- ちょうど平成30年あたりから稼働率がずっと下がっているように見える。
- ・いつ専門職員が退職されているかわからないが、そのあたりで、文化の活気が薄れてしまい、稼働率の低下や千人を超えるイベントが続かなくなってしまったのではと推測している。それを踏まえると、数字の通り見ていいのかどうか非常に心配するところ。
 - ・また、大ホールの稼働率について、武雄市文化会館は、もともと大ホールと小ホールの同時稼働ができなかった。そのため、小ホールが稼働している日は大ホールは使えないといった状況であった中での数字であることを念頭に置いて、皆さんに検討いただきたいと思う。

(D委員)

- ・職員の話については、とても大事な話だと思う。それがこの新しい新文化交流施設の多目的ホールを持った新しい施設。この施設であっても、やはり文化である程度キャリアのある施設に普通はなるはずである。
- ・この施設だけの問題ではなく、武雄市内の様々な文化活動を支える支え手としてコーディネートができる人を養成して、抱えていくということは、今後とも大事なことで、この委員会の中でも、そのような人のことを無視したまま、建物のことだけで話を進めるということはいけないと思う。
- ・それは建物をどう管理運営していくかを超え、まちの文化をどう活性化していくかということに繋がるので、人の問題を考えずにこの委員会で話が進められないのでは。将来のことを考えるならなおさらという認識。今後の議論の対象になれば。

*第2回の会議の進め方についての説明

(事務局)

- ・第2回については、文化施設と文化活動の現状と課題ということで、現状の文化活動を踏まえながら、これからの文化活動がどうあるべきか、事例を委員の皆様から紹介いただきながら、また、施設に関しても同じように他自治体で議論されている事例など紹介をいただきながら検討したい。
- ・また、夏ごろに開催予定の座談会をどのように進めていくのかなど活発なご意見をいただきたい。なお、日程については5月中下旬で予定している。委員長とも相談しながら決定し、お知らせしたい。

7. その他

8. 閉会

理事		課長 室長		係長		係員	
----	--	----------	--	----	--	----	--